

2020年 1月号

No.383

教務所 たより

発行者

小松教務所

〒923-0904 小松市小馬出町26番地

Tel 0761-22-0555

Fax 0761-22-0529

2020年1月1日発行

今月の揭示伝道

光壽無量

善友告げて言わく、
「汝もし念ずるに能わずは、
無量寿仏と称すべし」と。

『観無量寿経』

真宗聖典 百二十頁

2020年にあたって



2020年の年頭にあたり、小松教区の皆様にご挨拶を申し上げます。

旧年中は、真宗興隆「法義相続・本廟護持」の相続講精神に深いご理解を賜り、教財両面に渡りご尽力をいただいておりますこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、親鸞聖人は「弘」は、ひろしという。ひろまるという。と「唯信鈔文意」にて押さえられております。このことは、煩悩に覆われた自分の心を大きなご縁として、自分達に教えが弘まっていくということでしょう。

また、浄土の世界は常に我が身を照らして下さっておりますが、だからといって自分は何もしなくていいという事ではないと思います。社会構造が大きな変化を遂げるのと同様に、宗教離れ、寺離れが叫ばれております。そうであるなら、危機の真ただ中に居ることを認識しなければなりません。

更には、袈裟・衣を着ける者の聞く力、伝える力が、現在、厳しく問われておりますが、親鸞聖人のお言葉を頼りとして、教えは必ず伝わるという確信を内に持ちながら、常に、伝える努力と創意工夫を怠ってはならないと存じます。

耳を澄ませば、時代社会から、そして仏法から、自分への問いかけや呼びかけが届けられております。それらの声にきちんと応えていくような歩みをしてまいりたいと存じます。

新しい年を迎え、元気よく一生懸命、与えられた職責をまっとうしてまいりたいと存じますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

小松教務所長 池 守 章

1月の教化事業

下記のとおり実施いたしますので、皆様お誘い合わせのうえ、是非お参りください。

● 日曜講座（午前9時30分から勤行、同50分より11時30分まで法話）

< 2020年 1月 >

期 日	講師名	備 考
1月 5日	休 講 (年始休暇のため)	
12日	休 講 (十二日講にお参りください)	
19日	加藤 雅輝 氏	遠慶寺 (小松市中町)
26日	佐竹 融 氏	光玄寺 (小松市串町)

< 2月 >

期 日	講師名	備 考
2月 2日	(未定)	
9日	休 講 (粟津小会主催「真宗門徒講座」開催のため)	
16日	面 俊 氏	本覺寺 (小松市寺町)
23日	寺本 温 氏	真蓮寺 (長崎教区)

● 十二日講

- ◇ 日 時 1月12日(日) 9:30から11:30まで
- ◇ 会 場 常磐会館(小松教務所)
- ◇ 講 師 伊藤 俊作 氏(静光寺・能美市栗生町)
- ◇ 講 題 「このままでよいのだろうか。」
～出遇おう、ほんとうのいのちに～
- ◇ 主 催 十二日講門徒会

* 2月の十二日講 *

講 師 安藤 洋介 氏
(大聖寺教区 浄泉寺)

● いのちを育むプロジェクト「修正会・もちつき」

- ◇ 日 時 1月11日(土) 11:00から13:30まで
- ◇ 会 場 常磐会館(小松教務所)
- ◇ 主 催 教区教化委員会 青少幼年教化部門



● 真宗同朋の会 新年聞法会

- ◇ 日 時 1月20日(月) 9:30から11:30まで
- ◇ 会 場 常磐会館(小松教務所)
- ◇ 講 師 加藤 正現氏(勸正寺・小松市国府台)
- ◇ 講 題 「人と生まれて人となる」
- ◇ 主 催 真宗同朋の会代表者連絡協議会



11月・12月の行事報告

● 真宗本廟御忌報恩講団体参拝のご報告

本年の小松教区御正忌報恩講団体参拝は、2019年11月27日(水)に109名という多数のご参拝を賜って、結願日中を参拝しました。

到着後、大寝殿でお斎をいただくと、お一人おひとりに配膳をいただき、丁寧な司会進行もあって、皆さん早速感激されていました。

法要は、まず13時15分より飴野一郎さん(小松教区九日講組門徒会会長)の門徒感話と中村薫師の法話をお聞きました。飴野さんからは、定年退職後お寺に通うようになるも、報恩講で勤まるいつもより重たいお正信偈が最初はついていけず辛い時間であったが、その後、御遠忌に向けた勤行練習を重ねた結果、感動をもって勤められるようになったという、お正信偈に出会われた喜びをお話いただきました。

中村薫師は、正像末和讃「如来の作願をたづぬれば 苦悩の有情をすてずして 廻向を首としたまいて 大悲心をば成就せり」をご紹介くださり、15分ほどのお話しをされました。心筋梗塞で入院した時、いくら念仏しても苦しみが消えぬ生活の中、この和讃に「一切の有情を捨てない本願なのだ」と気付かされたことから、「人生は一切皆苦である。それは苦もあれば楽もあるというような生易しい話ではない。すべては苦なのである。」と確かめてくださり、このような我々をお救い下さる如来の本願であったのだという気づきをお話くださいました。私個人としましては「四苦(生老病死)の内、「生死」は思いの苦であり「老病」は現実にかかる苦である。」と確かめられたことが大変印象的でした。

結願法要は、本山御正忌報恩講にのみ勤まる最も重たいお勤めで、正信偈 句洵および念仏讃十二洵が勤まります。たくさんのご出仕、助音方による、重厚なお勤めをじっくりと参拝させていただきました。さらに、滞在時間に余裕があったことから日程最後の初夜勤行も一緒に勤めることができ、最後には恩徳讃唱和もあって、感動もひとしおでした。

御一緒に参拝くださいました皆様に御礼申し上げますとともに、来年の御正忌団体参拝が早くも待ち遠しくなる一日でした。 南無阿弥陀仏 (報告: 教区駐在教導 西山郷光)



お斎の様子

● 新任世話方研修会のご報告

新任世話方研修会を2019年12月13日(金)に開催しました。当研修会は、新しく世話方に就任された方へ「法義相続・本廟護持」の相続講精神と世話方の実務をお伝えする場を設けて欲しい、との要望が多数寄せられた事を受け開催しました。141名に案内したところ、30名が参加してくださいました。質疑では率直なご意見や要望が数多く寄せられました。

次回は2020年3月に開催する予定です。次回も多くの方々が参加される事を祈念しております。

※講師は主計が担当

(報告: 小松教務所主計 菴原憲行)



研修会の様子

● 寺族研修会を終えて

第1回寺族研修会「相続講賞典の歴史と意味」を2019年12月5日（木）夕方6時半から8時半まで開催しました。講師は山口昭彦氏で参加者は21人でした。『相続講の歴史と意義、加賀におけるお講の伝統』という講題で、資料をもとにお話し下さいました。



講師：山口昭彦氏

達如上人のもと、両堂再建と教化活動が同時展開されたことは「法義相続・本廟護持」を实践する重要な歴史です。さらに厳如上人が相続講員物故者を追悼するお経をあげられ、講員に対する感謝のこころを表されました。

また、相続講の賞典は先祖の徳を顕彰するためのもので、本山（東本願寺）とのご縁を通して、後の世までも本願念仏の教えにふれてほしいとの願いが込められています。

講義のあと、質問があり、「相続講の賞典について、時代に合わせた新規のものも考えてほしい」との内容でした。
(報告：寺族教化部門実行委員 翫千亜紀)

教務所 からのお知らせ

●宗派経常費の収納状況について

教区内の皆様方には、法義相続本廟護持のご懇念により、2019年度宗派経常費御依頼について格別なるご尽力を賜り、相続講志をお運びいただいておりますこと、誠に有難く、厚く御礼申し上げます。このたび、12月17日現在の収納状況について以下のとおり報告いたします。教区完納に向けて、引き続き、更なるお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年度 宗派経常費	御依頼額	金80,013,000円也
	収 納 額	金47,706,154円也(59.6%)

●真宗聖典検索サイトがオープン！！

現『真宗聖典』の本文が検索できるサイト「真宗大谷派（東本願寺）真宗聖典検索サイト」をオープンしました。（アドレス <https://shinshuseiten.higashihonganji.or.jp/>）
本サイトは、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業の一つとして取り組まれ、開設したサイトです。学習会等をはじめ、さまざまな場でご活用ください。



<小松教務所 事務休止のお知らせ>

下記の期間は事務取扱を休止します。皆様方にはご理解の程お願い申し上げます。

- ・2019年12月27日(金)午後～2020年1月6日(月) 年末年始事務休止
- ・2020年1月21日(火) 十二日講(2020/1/12)の代休

※ 2019年12月27日(金)の事務取扱は12時までです。

※ 新年の仕事始めは1月7日(火)です。

【緊急連絡先】 080-3394-6126 (主計)

※ 電話が繋がらない時は、必ずメッセージを入れてください。

